

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	13-040	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Factors associated with current smoking and heavy alcohol consumption among women of reproductive age: the Fourth Korean National Health and Nutrition Examination Survey 2007-2009.            妊娠可能な年齢の女性における喫煙と重度飲酒に対する関連因子：第4次韓国健康栄養調査 2007-2009年</p>		
<b>執筆者</b>		
Lee JY, Ko YJ, Park SM.		
<b>掲載誌</b>		
Public Health. 2013 May;127(5):473-81. doi: 10.1016/j.puhe.2013.02.009. Epub 2013 Apr 19.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
喫煙、妊婦、飲酒		23608023
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            妊娠可能な年齢の女性における喫煙と暴飲に対する関連因子を検証する。</p> <p><b>方法：</b>            第4次韓国健康栄養調査 2007-2009年に参加した20-49歳の女性5,031名のデータを解析した。社会的ステータス(年齢・居住地域・収入・学歴・既婚歴・社会保険)、心理的要因(ストレス、うつ、自殺志向)、婦人科的要因(経口避妊薬使用・出産歴)、既往状況(高血圧・糖尿病・肝臓・喘息・高脂血症)により層別化を行った。喫煙や飲酒といったに流産に関連する高いリスクを伴う習慣への影響因子をロジスティック回帰分析により検証した。</p> <p><b>結果：</b>            妊娠可能な年齢の女性において喫煙者の割合と重度飲酒者の割合、喫煙かつ重度飲酒を行う者の割合はそれぞれ7.3%、21.4%、4.3%であった。喫煙と重度飲酒、喫煙かつ重度飲酒といった高リスク習慣に関連が強くなったのは低い年齢、低学歴、未婚であった。心理的要因も同様に高リスク習慣に関連が強かった。経口避妊薬の使用も同様に高リスク習慣に対して関連が確認された。</p> <p><b>結論：</b>            喫煙、重度飲酒といった高リスク習慣に関連するリスク因子を特定することは喫煙率や重度飲酒を減らすための方策を検討する上や介入を実行する上で有用であると考えられる。高リスク習慣に対するポピュレーション・アプローチは中長期において出産率の向上と癌を含む慢性疾患の罹患率低減に寄与すると考えられる。</p>		